

○神学研究科 神学専攻

2020年度秋学期

- ・ スンナ派法理学（ウスール・ル=フィクフ）における廃棄（ナスフ）を巡る議論—ガザーリーの『法理論精要』における『廃棄の書』を中心に—
- ・ マタイによる福音書の「地震」に関する一考察
- ・ 箴言における「愚かさ」の擬人化についての一考察—9章の成立過程を中心に—
- ・ 旧約聖書における礼拝動作に関する一考察—「平伏する」などのヘブライ語表現について—
- ・ 15年戦争下の日本のバプテスト教会の戦争協力と葛藤
- ・ シュライアマハーにおける共同体理論
- ・ スティーヴン・ジェイ・グールドのNOMA概念の考察—アメリカにおける創造論と進化論の対立解消に向けて—
- ・ 宗教間対話の新約聖書の根拠—パウロを手がかりとして—
- ・ 日本的キリスト教の諸相——海老名弾正・内村鑑三の場合——
- ・ ログセラピー研究—人間・意味・神をめぐって—
- ・ F.フレーベル思想における「予感(Ahnung)」の重要性とキリスト教—F.フレーベル著『母の歌と愛撫の歌』とキリスト教主義幼稚園の実践から—

2021年度春学期

修了者なし

2021年度秋学期

- ・ ゼエヴ・ジャボティンスキーの連合国家に関する初期構想—1922年覚書に基づく—
- ・ 刷新と継承—Nostra aetateの歴史連続性について—
- ・ 初期キリスト教及びラビ・ユダヤ教における病気観の諸相—皮膚病の場合—
- ・ ヨハネによる福音書の「エゴ・エイミー」とキリスト論
- ・ ルカによる福音書17章20—21節におけるイエスの「神の国」理解
- ・ $\pi\iota\sigma\tau\iota\varsigma$ の訳と日本語訳「信仰」—聖書翻訳の限界と可能性—
※ギリシャ語部分は一部アルファベットに置き換えた
- ・ 構成主義からみたパウロの回心の定義——喪失と悲嘆における意味再構成の視点から——
- ・ マテオ・リッチの宣教活動とネットワーク—明朝末期におけるキリスト教拡大に関する考察—
- ・ ニジンスキーにおける神理解について
- ・ キリスト者の社会運動の継承に関する一考察—
—日本福音同盟（JEA）社会委員会の大嘗祭への反対運動を題材に—

- ・ 被差別部落の解放をめぐる神学的考察—その歴史と実践を踏まえて—
- ・ 波多野精一における「愛」の神についての考察
- ・ ピエール・ベールにおける改革派思想に基づく寛容論—実践神学的—考察—
- ・ 現代の教会学校教育における宣教の働き—不登校支援における教育機関との連携を通して—
- ・ エルンスト・トレルチにおける複数性理解についての—考察—メノナイト派を中心に—
- ・ コルネリウス物語における聖霊の働きの意義について—なぜ水の洗礼より先に聖霊が注がれたのか—

2022年度春学期

- ・ 修了者なし